

日本学術会議  
東日本大震災に係る学術調査検討委員会（第22期・第7回）  
議事要旨

日 時：平成25年1月23日（水） 13:00～15:00

場 所：日本学術会議6階 6-A（2）会議室

出席者：岩澤康裕委員長、山下俊一副委員長、和田章幹事、武市正人委員（skype参加）、友枝敏雄委員、杉田敦委員、福田裕穂委員、平朝彦委員、矢川元基委員、大場利康国会図書館電子情報部課長（オブザーバー）

配布資料：

- 資料1 前回議事要旨（案）
- 資料2 提言等のための準備資料（1月23日現在）各担当分担とりまとめ
- 参考1 委員名簿
- 参考2 アンケート調査票
- 参考3 調査検討委員会の具体的方針と進め方について

議 事：

- 1) 前回議事要旨（案）の確認
- 2) 学協会アンケートの取り纏め結果の報告（各分担委員）
- 3) 提言に向けた今後の取り纏めについて
- 4) その他

**1) 前回議事要旨（案）について**

- 資料1の前回議事要旨（案）について訂正等があれば、適宜事務局にご連絡をいただくこととされた。

**2) 学協会アンケートの取り纏め結果の報告（各分担委員）**

- 資料2について、各委員より報告があった。欠席者の分担部分については委員長が代わって報告された。

**3) 提言に向けた今後の取り纏めについて**

- 第7回委員会で報告された取り纏めは、「アンケート回答の概要説明」と「提言を想定して委員がまとめた内容」の両方を含んだものであった。
- 今後は「学術調査の総括」のための項目①～⑦其々につき、各委員により提言案をまとめていただく（A4一枚程度、2/4正午×切）。
- 全委員から提出された分野別の提言案①～⑦を、岩澤委員長がA4二枚程度にまとめ直し、それを全委員に検討していただく予定となった。

※学術調査の総括

- ①学術調査が（複数）入ることの弊害、調査する側の倫理
- ②現時点で調査が不足している事項

- ③長期的に調査を行わなければならない事項
- ④学協会による連携の重要性
- ⑤アーカイブの重要性
- ⑥今後、このような緊急時のために対処しておくべきこと、体制等
- ⑦その他の教訓

#### 4) その他

○報告の際の主たる議論は下記の通り。

- ・学協会対象の調査では、学協会としての役割を捉えることはできても、現場の研究者の学術調査活動や支援活動の把握は十分とは言えない。今後は研究者個人への調査が必要である。
- ・このたびの震災では「社会システムがどうあるべきか」という大きな問が投げられた。この問には分野横断的な取り組みでないと答えることができない。
- ・災害調査はできるだけ早期に行うことが重要であるが、被災地域の方々の心理的負担や倫理的課題を考えると規制せざるを得ない場合がある。しかし、それにより後世への伝達事項が減る可能性があり、この矛盾をどうしたらよいか。

以上